

原料費調整制度に基づく都市ガス料金単価の調整について  
( 2014年6月 検針分 )

2014年1月～2014年3月のLNG及びLPGの貿易統計値が発表されました。  
原料費調整制度に基づき、基準単位料金を調整させていただきます。

2014年6月 検針分の単位料金は2014年5月 検針分に比べて、1m<sup>3</sup>(45MJ)当り  
0.8262円(消費税込)、標準家庭(26m<sup>3</sup>)では月額 22 円の調整を行うこととなりました。

●一般ガス供給約款料金における調整単位料金

(消費税込)

	単位	2014年5月 (A)	2014年6月 (B)	(B)-(A)
A料金表 (0m <sup>3</sup> ～24m <sup>3</sup> )	円/m <sup>3</sup>	259.4366	260.2628	0.8262
B料金表 (24m <sup>3</sup> を超える)	円/m <sup>3</sup>	201.4431	202.2693	0.8262

●平均原料価格

	単位	2013年12月 ～ 2014年2月	2014年1月 ～ 2014年3月	基準平均原料価格
LNG平均価格 (貿易統計値)	円/トン	88,100	89,060	
LPG平均価格 (貿易統計値)	円/トン	106,140	105,090	
平均原料価格	円/トン	89,360	90,220	62,680

平均原料価格=LNG平均価格×0.9533+LPG平均価格×0.0506

(10円未満端数四捨五入)

※平均原料価格が100,290円以上となった場合は100,290円

$$\begin{aligned} \text{原料価格変動額} &= \text{平均原料価格} - \text{基準平均原料価格} \quad (\text{平均原料価格が基準平均原料価格以上のとき}) \\ &= 90,220 - 62,680 = 27,500 \text{ 円/トン} \\ &\quad (100円未満端数切捨て) \end{aligned}$$

●調整単位料金の算定

平均原料価格が基準平均原料価格以上のとき

$$\text{調整単位料金} = \text{基準単位料金} + 0.085 \times \text{原料価格変動額} \div 100 \text{円} \times (1 + \text{消費税率})$$

	単位	(A) 基準単位料金	(B) 2014年6月 検針分 調整単位料金	調整額 (B)-(A)
A料金表 (0m <sup>3</sup> ～24m <sup>3</sup> )	円/m <sup>3</sup>	235.0178	260.2628	25.2450
B料金表 (24m <sup>3</sup> を超える)	円/m <sup>3</sup>	177.0243	202.2693	25.2450

(小数点第5位以下の端数切捨て)

●標準家庭のご使用例(1ヶ月分)

1ヶ月分使用量(m <sup>3</sup> )	(A) 2014年5月	(B) 2014年6月	影響額 (B)-(A)
26	7,368	7,390	22

計算式・・・基本料金(税込)+調整単位料金(税込)×使用量 (1円未満の端数は切り捨て)